

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年6月21日（金）

2 確認箇所

- (1) 多核種除去設備等処理水測定・確認用設備（図1）
- (2) 定検機材倉庫B（図1）

3 確認項目

- (1) 多核種除去設備等処理水の試料採水状況の確認
- (2) 横置き型ブルータンクの解体、除染作業の状況確認

4 確認結果の概要

(1) 多核種除去設備等処理水の試料採水状況

東京電力は、多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の海洋放出に際して、希釈前のALPS処理水の核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種が法令上の基準以下となっていることを確認している。（トリチウムは海水で希釈して法令上の基準を満足させる。）

東京電力では、ALPS処理水の第8回目の放出に向けて、K1エリアC/D群及びG4南エリアC群のタンクに貯留しているALPS処理水を測定・確認用タンクC群に移送後、6月14日から循環攪拌運転を行っている。

本日は、循環攪拌運転が行われているC群のALPS処理水の試料採水が行われることから、その状況や手順を確認した。（前回確認：令和6年4月23日）

- ・試料採水は、サンプルタンク循環ポンプが設置されている多核種移送設備建屋において、試料採水専用の系統から行われた。（写真1）
- ・試料採水の際、配管のフラッシング（試料水による配管内の洗い流し）が行われた後、測定機関ごとに容器を分けて試料の採水が行われた。（写真2）
- ・試料採水にあたっては、共洗いを2回行った後に試料採水が行われた。また、コンタミ*防止のため、試料採水者と弁操作者の役割分担がなされおり、適切に試料採水が行われていた。（写真1-2）

※コンタミ：異物や不純物等、本来混入すべきではない物質が混入すること。

(2) 横置き型ブルータンクの解体、除染作業の状況

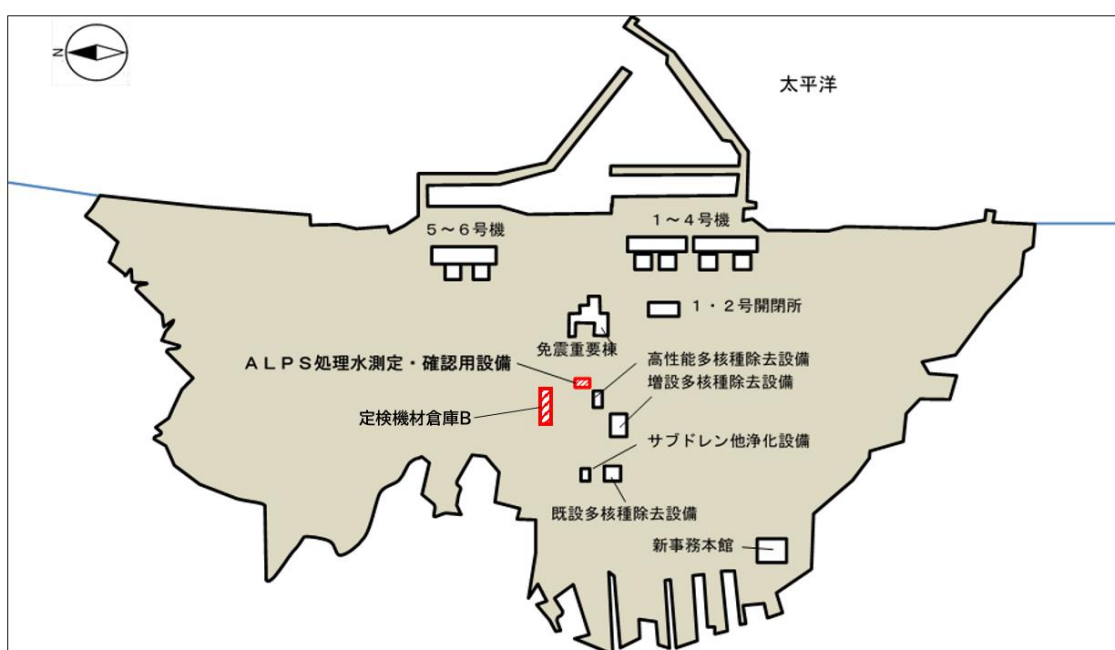
横置き型ブルータンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後から増え続ける建屋内滞留水の移送先として使用されてきたが、敷地利用の観点から縦型の溶接タンクへの移行が進み、現在は利用されず、福島第一原子力発電所構内にて仮置きされている。利用から10年以上経過し、外面に塗

装剥がれが見られることから、今年度からブルータンクの解体、撤去を予定している。

この度、東京電力では、定検機材倉庫B内に解体、除染設備を設置して、全367基の解体及び除染を今年度実施する予定であることからその状況について確認した。

- ・定検機材倉庫Bの西側では、機材設置に向けた足場の骨組み作業が行われていた。9月中にブルータンクの解体、除染設備の設置作業を進め、10月からブルータンクの解体、除染に向けた作業を開始する予定である。

(写真3)



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)

試料採水時の状況①



(写真 1-2)
試料採水時の状況②



(写真 2)
採水された試料の状況



(写真 3-1)
定検資材倉庫Bの状況①
(足場の組立の様子)



(写真 3-2)
定検資材倉庫Bの状況②
(トラバース等の設置に向け、資機
材が運び込まれている様子)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。